日本橋を歩く「常盤橋から増上寺」

月例会「日本橋」

朝からの暑さにも関わらず、66 名が参加（内 1 名は歴史好きの小学 6 年生）し常盤橋からスタート。準備体操をして、江戸の成り立ち、常盤橋門の特徴などをガイドし、金座址へ向かいます。

常盤橋で本日のコース説明

常盤橋は、江戸城の大手門に通じる重要な外郭門で、浅草を経て奥州、日光への街道への出入り口でした。

日銀本店前金座址

日本銀行本店は、明治のネオバロック様式の石造りの建物で、ベルギーの国立銀行をモデルに辰野金吾が設計しました。江戸時代には金座があったところで、道路の向かい側には貨幣博物館（入場無料）があります。ここをまっすぐ中央通り方に向かうと駿河町と呼ばれたところに越後屋（現三越）がありました。近江の武士の出である三井高利が江戸に出てきて、開店した呉服屋です。

三井越後屋（現三越）

今は、玄関にライオンが鎮座するデパートとなり、暖簾には「丸に越」が染め抜かれていますが、当時は、「井桁に三」でした。

越後屋の角を曲がると日本橋です。

今の橋は、明治 44 年に架けられ今年で 100 年目になります。

橋の中央に、「日本国道路元標」が設置され、まさに五街道の起点たる日本橋という感がします。日本橋の橋銘は、１５代将軍慶喜公の筆と言われています。

今は高速道路が上をまたぎ、風情が損なわれてしまいましたが、高札場があり、魚河岸があり、日本橋川の船着き場には、全国からの物資が運び込まれておりました。漆器の黒江屋、蚊帳の西川ふとん、鍔の形の「きんつば」が有名だった榮太郎、海苔の山本屋、山本山など江戸時代から続く老舗の前を通って京橋へとたどりました。

京橋は、日本橋から京都に向かうと初めて渡る橋であったことからこの名がついたといわれています。昭和 34 年に京橋川が埋め立てられ、今は、親柱が記念に立っています。

京橋の親柱とガス灯

その横には、復元されたガス灯が灯っていて、明治 7 年には、京橋から金杉橋まで 75 基のガス灯が照らしたという。道路の向こう側に、親柱を模した交番がほほえましく立っていました。京橋は、江戸歌舞伎発祥の地でもありました。中橋の地に中村座が、常打ちとなり、太鼓櫓が許されたといいます。

江戸時代に銀貨を鋳造した銀座の址は日本一の繁華街銀座通り、両側に世界のファッションブランドのお店がズラリ。西条八十作詞、中山晋平作曲の銀座の柳の碑から、新橋へ。二世、三世と代替わりをした銀座の柳も風になびいていました。

新橋の停車場址は、汐留再開発で高層ビルの狭間にありました。

新橋停車場址

明治 5 年に新橋～横浜間を 53 分で結んだ鉄道が敷設されました。現在は鉄道歴史展示室が再建され当時の駅舎の様子を偲ぶことができます、プラットフォームや線路も復元されています。

東海道を少しそれて、芝の大神宮を経て、お江の眠る増上寺に向かいました。

芝の大神宮

芝大神宮は、芝神明社、関東のお伊勢さんと言われ、だらだら祭りが有名。そこで売られるのが生姜、供養の生姜塚がありました。芝居で有名な「め組の喧嘩」の舞台ともなった場所で、大いににぎわっていたそうです。

芝公園の片隅に立つ開拓使仮学校跡の石碑を見て増上寺へと向かいました。増上寺は、江戸の鬼門を守る寺として、家康がこの地に移しました。徳川家の霊廟としても大変広大な敷地があったということですが、戦災で焼け、今は大半の土地がプリンスホテルになっています。霊廟があったよすがとして、有章院霊廟惣門、台徳院霊廟惣門が、残っています。秀忠、お江、和宮をはじめとして、5 将軍、正室、側室など 38 人が眠る「徳川家将軍家墓所」が、NHK 大河ドラマの関連からか 4 月から 11 月まで公開されており、記念写真を撮ったそばの売店では、「お江羊羹」が売られていました。

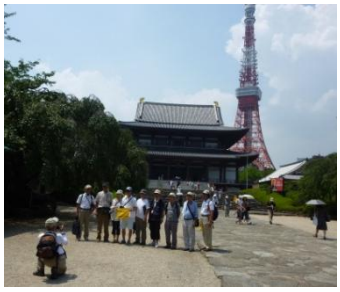
開拓使仮学校址

有章院霊廟惣門

台徳院霊廟惣門

徳川将軍家墓所

徳川将軍家墓所の入り口は、銅製の鋳抜門で 6 代将軍家宣霊廟の中門に使われていたものです。昇龍、下龍を鋳出した立派な門です。
中のお墓は、戦後ここに集められ、桐ヶ丘で荼毘に付して改葬されました。お江だけは、土葬でなくお骨にされて埋葬されていたことが東大の調査で分かったそうです。
お江は、秀忠と一緒に葬られました。



記念写真を撮る

東京タワーと増上寺本堂をバックに記念写真を撮りました。

最後にクールダウンの体操をして、解散しました。この後、徳川将軍家墓所の見学に行った方も多かったようです。

お疲れさまでした。次回保土ヶ谷宿の参加をお待ちしています。